

大分教区

堅信指導計画

はじめに

「これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、
あなたがたの喜びが満たされるためである。」(ヨハネ 15:11)

イエス様は最後の晩餐の席で、特に大切なことを遺言として弟子たちに託し、その理由として、上のことばを述べられました。イエス様の使命を引き継いだ教会が福音を宣べ伝えるのは、一人ひとりの喜びが満たされるためです。子どもから大人への人生の移行時期に、堅信の秘跡に強められ、自分の召命を見出し、真にその召命に生きることができれば、「喜びに満たされる」に違いありません。

この度、司祭召命委員会は『大分教区堅信準備要領』に続き、これに基づいて「堅信指導計画」を発行いたします。この『指導計画』は、『大分教区堅信準備要領』P.10に提示されている通り、「信仰の定着を図るための基準となる」よう考案されています。委員会は、一度この「指導計画」を実践で試してはおりますが、決して完成されたものとは思っておりません。これから、皆さんに大いに利用していただき、よりよいものに創り上げていきたいと思っております。

今年(2018年)はシノドスの年となっております。テーマは「若者、信仰、そして召命の識別」です。まさに堅信の秘跡の準備のことだと思えます。全教会と心を合わせ、特別に若者に注目して参りましょう。

洗礼を受けたすべての人が、いただいた信仰のお恵みを決して無駄にすることなく、それを大きな喜びとして、有意義な人生を送ることを祈りながら…。

大分教教長：浜口 末男

目 次

堅信指導計画の使い方	1
各欄と用語の説明	2
授業の心構え	3
単元 A：語りかける神	
ステップ1：自分を見つめる	4
ステップ2：神からのメッセージに気づく	5
単元 B：神に聴く	
ステップ1：モーセの召命物語を読む	6
ステップ2：聖書の読み方を習得する	7
ステップ3：すべてを破壊する罪	8
単元 C：救い主 イエス・キリスト	
ステップ1：ことばと業によって、神の国の福音を告げるイエス	9
ステップ2：死と復活によって神の国を完成したイエス	10
単元 D：キリストは私たちに派遣する	
ステップ1：聖霊の降臨によって誕生した教会	11
ステップ2：堅信の秘跡	12
ステップ3：「堅信式 直前の準備」	13
堅信を準備する者の祈り	14

堅信指導計画の使い方

〈堅信指導計画とは〉

大分教区における堅信準備についての考え方やその内容は、先に出された『堅信準備要領』（以下『要領』）に記されており、この『堅信指導計画』（以下『指導計画』）は、『要領』に沿って授業を展開するために必要な指導内容を示している。『指導計画』は堅信のための指導の要点であり、『要領』と併せて授業を準備するためのものであるから、部分的に使うのではなく、記載されている内容のすべてが伝えられるようにする。

〈授業案の作成について〉

カテキスタは、『要領』と『指導計画』に基づいて、各自の授業案を作成する。『要領』と『指導計画』は規範的なものであるから、具体的で実践的なものは、各カテキスタがそれぞれ担当する中学生の現実を想定して作成する必要がある。授業案作成に当たっては、綿密な時間配分、引用や参照の箇所、また、具体的にとりあげる例や話し方についても、しっかりと準備する。なお、以下の点も参考にすること。

〈授業回数〉

この『指導計画』は、4つの単元を10のステップに分けて説明している『要領』に従っている。各ステップには、少なくとも一回の授業（50分）が割かれることが想定されている。中学生とカテキスタの実情に合わせて、一つのステップを数回の授業に分けて実践するのが望ましい。授業回数や理解を深める度合いについては、状況に合わせて設定することができる。

また、毎回の授業の始めと終わりには、「堅信を準備する者の祈り」（最後のページ参照）を唱えたり、毎日曜日の『聖書と典礼』のみことばを読んだりすることがすすめられる。

〈各欄と用語の説明〉

単 元

堅信の秘跡の準備にあたり、伝えたいすべての内容を A～D の 4 つに分けて概観するものであり、柱となっている。各単元で達成したい目標も明記されている。

ステップ

一単元を 2 つないし 3 つに分け、各ステップで達成したいポイントを明記している。このポイントを押さえることができ初めて、単元全体の目標が達成可能になる。「単元の目標」及び「ステップのポイント」は、ともに各授業の目指すところであり、それを意識して授業を組み立てていく。

中学生の活動

中学生を主体として書いている。主語は中学生であり、彼らが理解し行う内容である。

カテキスタの指導内容

カテキスタを主体として書いている。「中学生の活動」を実現させるため、カテキスタが何を伝えたらよいのか、大まかなポイントのみを提示している。そのため、カテキスタはこの要点を踏まえた上で授業を展開し、内容を深めていく。

留意点

授業を展開する上で注意すべきこと。あわせて、必要な文献を掲載している。カトリック教会の教えを自ら学び、伝えていくための重要な資料である。文献の数字はすべて番号であり、ページ数ではない。なお、具体的な聖書の箇所や参考になる人物などを提示しているが、よりふさわしいもの、使いやすいものがあれば、取り入れることができる。

備 考

中学生に覚えてもらうこと、体験してもらうこと、身に付けてもらうことを具体的に書いている。これらがしっかりと身に付けられるよう、保護者の協力を得ながら、カテキスタ自身も確認しながら、授業を進める。

〈授業の心構え〉

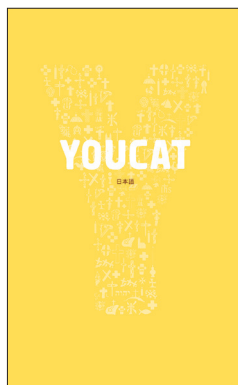
授業を行う際は、『要領』を踏まえ、『指導計画』に基づいてそれぞれが作成した授業案に沿って展開していく。いかに授業を行うかが重要なことではなく、いかに中学生が与えられた信仰の恵みを理解するかが焦点となる。堅信準備の授業を行う者には、彼らが自らの人生を歩む上で秘跡を大切にし、聖霊の恵みによって神との関係を堅くしながら、与えられたいのちをよりよく生きるための信仰の基盤を固める時であることを認識し、信仰者としてともに考え、体験を分かち合う姿勢で臨むことが求められる。

〈主な参考資料〉

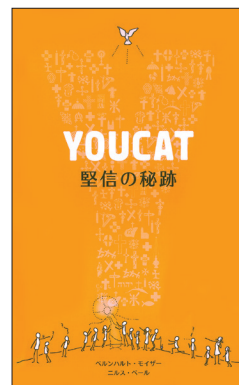
『指導計画』に引用されている主な参考文献。



『カトリック教会のカテキズム』



『YOUCAT — カトリック教会の
青年向けカテキズム』



『YOUCAT — 堅信の秘跡』

単元A	語りかける神	単元の目標	自分の内面を見つめることによって、語りかけておられる神に気づく	
ステップ1	自分を見つめる	ステップ1のポイント	自分の現状、喜びや苦悩に目を向け、自分自身について考える	
中学生の活動		カテキスタの指導内容		留意点
<ul style="list-style-type: none"> * 堅信準備を始める祈りをする。 * 恵みを与えてくださる神に、堅信の秘跡まで勉強できるよう祈る。 		<ul style="list-style-type: none"> * 堅信準備を始める祈りの時を持つ。 		<ul style="list-style-type: none"> * 初めの祈りは、語りかける神の存在を感じられるような内容にする。 ★『YOUCAT 堅信』1.6
<ul style="list-style-type: none"> * 堅信の秘跡へと導いてくださる神に心を向ける。 * 出会うカテキスタ、仲間と交わる。 		<ul style="list-style-type: none"> * カテキスタ自身が、これから関わる中学生の好みなどに関心を持ち、心を開いていることを示しながら信頼関係を深めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> * 中学生時代の特性を踏まえ、子どもとして見るのではなく、対等な人格として向き合う。 * 親睦を深めるような集まりなどの企画もできる。
<ul style="list-style-type: none"> * 自分の現状、喜びや苦悩に目を向け、自分自身について考えてみる。 		<ul style="list-style-type: none"> * 中学生自身がどのようなことに喜びを感じ、何に悩んでいるか、自らが置かれている現状に目を向けるよう促す。 * 現状から浮上してきたものは、人間の根本的なことであり、誰もが向き合わなければならない問題であることを伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> * 中学生の喜びや悩みは、小さなことであっても決して軽視せず、心から共感する。ここでは悩みを解決する時ではないことを心得ておく。 * 中学生の現状として予想されること。 • 評価 …………… 成績や外見で評価されがちな中学生 • 人間関係 …… 友達や親、異性その他、人間関係に悩む中学生 • 愛されたい …「わかってほしい」「受け入れられたい」との願いを持つ中学生 • 将来 …………… 将来に不安を持つ中学生
<ul style="list-style-type: none"> * 自分の喜びや苦悩に、神が深く関わってくださることを知り、堅信の準備の必要を認識する。 		<ul style="list-style-type: none"> * 中学生の話の内容をカテキスタが受けとめ、堅信準備を通して、彼らの現実に福音が光を与えてくれることを伝える。 * 人間（私）とは何か、神はどんな方なのか、神に聴きたいという気持ちを起こさせる。 		
<p>備考 * 身に付けよう -- 家族で祈る。特に、『堅信式に向けての準備の祈り』を家庭で唱える。</p>				

単元B	神に聴く	単元の目標	神のことばに耳を傾ける	
ステップ1	モーセの召命物語を読む	ステップ1のポイント	神に語りかけられた人がどのように神のことばを受け止めたかを学ぶ	
中学生の活動		カテキスタの指導内容		留意点
<ul style="list-style-type: none"> * 神は、ある人を選んで特別に語りかけることがあり、事例を見ながら神の呼びかけをどのように受け止めたかを学ぶ。 * モーセやマザー・テレサの例を見ながら、彼らがどのように神のことばを感じていたかを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> * モーセやマザー・テレサなど、神の声を聞いて従った人たちの例を挙げながら、彼らが、神のことばを聞き、どのように受け止めたかを学ばせる。 特に、彼らは直接言葉を受ける以前から、既に神のことばを聞いており、自分たちの人生を変えるほどの強い力を感じていたことに気づかせる。 		<ul style="list-style-type: none"> * 例に挙げる人物は他の人でも良いが、テーマから離れないことと、理解しやすい例であることが求められる。(高山右近、岐部カスイ) * ステップ1では、ここが強調点。日常の周囲の声や出来事を、彼らは神の呼びかけとしてとらえることができたという点を強調する。 ★『カテキズム』142-149参照 ★『YOUCAT』20 ★出エジプト1：1-6：13「神とモーセの関係」
<ul style="list-style-type: none"> * 神のことばは、特別な人だけでなく自分自身に向けられていることを知り、神が何を呼びかけておられるか考える。 		<ul style="list-style-type: none"> * 神は、日々私たちに語りかけておられることを伝え、自分に投げかけられているメッセージについて考えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> * 日常の中で振り返り、メッセージを捉えようとする体験が必要。
<ul style="list-style-type: none"> * 神が人間にご自分を示した啓示について学ぶ。 * 新約聖書の中で、神を感じる箇所を探してみる。 		<ul style="list-style-type: none"> * 啓示について説明し、その意味を覚えさせる。 * 神がご自分を示されたことが、聖書の中からも読み取れることを伝え、神がどのような方なのか、その姿を感じさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ★ヘブライ1：1-2「神は御子によって語られた」 ★『カテキズム』50-73 ★『YOUCAT』7-10 ★『YOUCAT 堅信』2.4-2.5 ★ルカ15章、ヨハネ10章、15章など
<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> * モーセについて知ろう 出エジプト3章、ビデオ『聖書物語』など * 覚えよう 啓示とは、神が人間を愛し救うために、ご自分を示されたことです。それは、預言者を通して語られ、イエスによって完成されました。そのことが聖書の中に書かれています。神の姿が示されている聖書は、『啓示の書』とも呼ばれています。 				

単元B	神に聴く	単元の目標	神のことばに耳を傾ける	
ステップ2	聖書の読み方を習得する	ステップ2のポイント	聖書の登場人物に身を置いて、神のことばを聴く読み方を習得する	
中学生の活動		カテキスタの指導内容		留意点
* 聖書をとおしてイエスが語られることを知り、イエスのことばを聴く。		* ローソクを灯すなどして、生きておられるイエスをお迎えして、聖書をとおして語られるイエスに耳を傾けるよう導く。		<p>* 知的な説明に終始せず、神の現存を感じられるよう導く。</p> <p>★ 例：マルコ10：17－31「金持ちの男」 マタイ25：14－30「タラントのたとえ」 ルカ19：1－27「徴税人ザアカイ」 ルカ10：25－37「善いサマリア人」</p>
* 聖書の登場人物に身を置いて読み、自分の中に湧いてくる発見や驚きを捉える。		* 次の主日の福音、または他の箇所を通して、聖書の読み方を学ばせる。登場人物に身を置いて読むなど、自分の中に湧いてくる思いを捉えるよう導く。		<p>★ 『カテキズム』101－119</p> <p>★ 『YOUCAT』7－9</p> <p>* 聖書に関心を持つため、「驚き」「疑問」「納得」の箇所を見つけるなど工夫する。</p>
* イエスの救いの出来事を記念する典礼暦について知る。		<p>* 一年を通してイエスの生涯を記念する典礼暦を説明する。</p> <p>* 私たちが救いへと導かれていることを知らせ、喜びのうちに生きるよう召されていることを理解させる。</p>		<p>* イエスの生涯は、直接私たちにつながっていると感じられるように話す。</p> <p>★ 『YOUCAT』186 表などを参考にして説明する。</p>
* ミサ聖祭で復活したイエスが実際におられ、ことばの典礼でイエスが実際に語られることを理解する。		<p>* 特にミサの中で、生きたイエス・キリストが、聖書を通して私たちに語りかけてくださるため、イエスの話を聴くかのように、聖書に耳を傾けるよう教える。</p> <p>* ミサの朗読奉仕を中心に、積極的に典礼に参加するよう促す。</p>		<p>* みことばを用いた祈りの中でも最高の祈りはミサである。「ことばの典礼」ではイエスの生涯の出来事が語られ、「感謝の典礼」では最後の晩餐でのことばが語られる。 ミサ中のイエスのことばをしっかりと聴くよう教える。</p> <p>★ 『カテキズム』1154</p>
<p>備考 * 身に付けよう 家で聖書を開いて読む習慣をつける。(ミサ後、『聖書と典礼』を持ち帰り活用するなど)</p> <p>* 身に付けよう ミサの中で積極的に典礼奉仕をする</p>				

単元B	神に聴く	単元の目標	神のことばに耳を傾ける	
ステップ3	すべてを破壊する罪	ステップ3のポイント	神から与えられた自由について学ぶ	
中学生の活動		カテキスタの指導内容		留意点
<p>* 生活の中にある自由について意識し、本当の自由とは何かをよく考える。</p> <p>* より善であるものを選んでいくことが、真の自由であることを学ぶ。</p>		<p>* 中学生の考える自由について耳を傾け、自由についての考察を深める。ルールがないことが本当の自由ではないことに至る。</p> <p>* 神が人間に与えて下さった自由は、より善なるものを選ぶことであり、それは神に従う道であることを理解させる。</p>		<p>* 自由について、一般的な自由の解釈ではなく、カトリック教会が捉えている、神から与えられた自由について説明する。自由が責任を伴うこともしっかりと説明する。</p> <p>★ 創世記1：26 - 27「人の創造」</p> <p>★ 『カテキズム』1730 - 1748</p> <p>★ 『YOUCAT』286 - 294</p>
<p>* 私たちは、常に自己中心的に生きる誘惑の中にあり、神のみ旨を生き続けるためには、神の助けと恵みが必要であることを理解する。</p>		<p>* 普段の生活の中で、自己中心的に生きる誘惑がどれだけあるか具体的に身近な例で考えさせる。</p> <p>* 人間が常に真理を選べない「弱さ」を持っていることを知らせ、神の導きが必要であることを伝える。</p>		<p>* 中学生にとって身近な例を挙げ、常によいものを選べない「人間の弱さ」について考える。</p> <p>* 神の導きとは、みことばと教会の教え、良心の声などである。</p>
<p>* 自己中心的に生きることが神に背く罪であり、その結果日常生活の中で悲惨な出来事が起きていることを理解する。</p>		<p>* 自己中心的に生きることが、悲惨な出来事につながることを具体例を挙げながら説明する。</p> <p>* 原爆やアウシュビッツなどの例を挙げ、小さな人間の罪が拡大した時の悲惨さを一緒に考える。</p>		<p>* 例えば不和、争い、喧嘩、いじめなど。</p> <p>* 現代世界の紛争や歴史上の出来事などを題材に考えることができる。</p> <p>★ 『カテキズム』396 - 421</p>
<p>* 人間が何度も罪を犯しても、神は更に大きな愛で私たちが救おうとしてくださることを知り、神の愛に信頼する。</p>		<p>* どんなに悪と罪の力が強くても、人間を救おうとする神の力が、これに勝っていることを教える。</p>		<p>* 罪の恐ろしさ以上に、人間に対する神の愛の大きさを訴える。</p>
<p>備考</p> <p>* 体験しよう 教区で行っている『中高生の平和学習』などを通して、原爆資料館や浦上天主堂など自分の目で見て学習する。</p> <p>* 覚えよう 自由とは、自分自身で行動できるようにと、神から与えられた力です。人は、善を行えば行うほど自由になります。</p> <p>* 身に付けよう ゆるしの秘跡の習慣。(司祭、カテキスタ、親、受堅者と協力して恒常的にゆるしの秘跡を受けられるような体制をつくる)</p> <p>★ 『YOUCAT 堅信』11章</p>				

単元C	救い主 イエス・キリスト	単元の目標	救いの歴史の中心であるイエスの教えとみ業について学び、イエスをとおして呼びかける神のことばに聴く	
ステップ1	ことばと業によって、神の国の福音を告げるイエス	ステップ1のポイント	見失った一匹の羊を探し求める牧者として父なる神を紹介したイエスは、同じ心をもって生き抜いたことを理解する	
中学生の活動		カテキスタの指導内容		留意点
<p>* 神がどれだけ人々を愛しているか「神の愛」を意識しながら聖書を読む。</p> <p>* 神の心である「牧者の愛」について学び、神の愛の深さ、広さを感じる。</p>		<p>* 選んだ聖書の箇所を解説し、テーマなどを伝えながら、ゆっくりと読む。</p> <p>* おん父の愛を中学生が感じ取れるように援助する。</p> <p>* 一人も見捨てることなく、迷った羊を探し続ける牧者の姿を生き生きと伝える。</p>		<p>★ 聖書の参照箇所例 ルカ15章「見失った羊、銀貨、放蕩息子」 ルカ10：25-37「善きサマリア人」など</p> <p>* 聖書をテキストにして、神の牧者としての愛に焦点をあてて読む。</p> <p>* 知的な理解だけでなく、体験的に理解できるよう工夫する。</p>
<p>* おん父の愛をイエス・キリストご自身が行いをもって表していることを知る。</p>		<p>* 神の思いをイエスご自身が生き方をもって表したこと、他の価値とは異なる福音的な価値を聖書の中のイエスの姿から理解できるようにする。</p>		<p>* キリスト者として、信仰を生きることは、福音的な価値を理解し、その心を自分の中に育てて行くことが必要になる。</p> <p>★ 『カテキズム』516</p> <p>★ マコ1：40-45「重い皮膚病」 ルカ7：11-17「息子を亡くしたやもめ」 ヨハネ8：1-11「姦通の女」</p>
<p>* 身の危険を顧みずラザロを救いに出発するイエスの中に良い羊飼いの姿を見る。</p>		<p>* ラザロの聖書の箇所から、イエスが一人のために命を懸ける良い牧者であることを伝え、私たちがそれほどの愛を受けていることを理解させる。</p>		<p>★ ヨハネ10：31、39-40、11：1-16「ラザロの死」</p>
<p>備考 * 聖書を読もう …………… 授業で扱わなかった聖書の他の参考箇所を読もう。</p> <p>* 覚えよう …………… 「わたしが天から降ってきたのは、自分の意思を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。」 (ヨハネ6：38)</p>				

単元C	救い主 イエス・キリスト	単元の目標	救いの歴史の中心であるイエスの教えとみ業について学び、イエスをとおして呼びかける神のことばに聞く
ステップ2	死と復活によって 神の国を完成したイエス	ステップ2の ポイント	愛の極みである十字架によって救いがもたらされたことを心に刻む。
中学生の活動		カテキスタの指導内容	
<ul style="list-style-type: none"> * イエス・キリストの死と復活の出来事を詳しく知り、心に刻む。 * 聖なる過ぎ越しの3日間の典礼を体験する。 		<ul style="list-style-type: none"> * 聖なる過ぎ越しの三日間の典礼を体験的に理解させる。 * 教会はこれを最も大切なこととして、年に1度盛大に記念することを学ばせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> • 最後の晩餐について学び、イエスの中で愛のしるしとして聖体の秘跡を制定されたことを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> • 聖木曜日…最後の晩餐の席で、「これは私の体である」と言ってお聖体を制定されたことを説明し、互いに仕え愛し合うという新しい掟が与えられたことを理解させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> • 人を救うために神の子が苦しみを受けられたこと、ご自分の命を与えてくださったことを考えながら『十字架の道行』を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> • 聖金曜日…イエスの十字架の死について、聖金曜日のみことばの典礼を用いて説明し、『十字架の道行』をしながらイエスの受難を共に黙想する。 	
<ul style="list-style-type: none"> • 復活徹夜祭の典礼に用いるシンボルから、イエスが復活によって死に打ち勝ち、世の終わりまで私たちと共にいてくださることを理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> • 復活徹夜祭…イエスの復活によって、全てが死で終わるのではなく、イエスと共に生きる喜びと、世界が救われるという希望がもたらされたことを伝える。 	
備考 <ul style="list-style-type: none"> * 体験をしよう …………… 十字架の道行。(場所の例：男子トラピスト修道院の道行など) * 覚えよう …………… 「皆、これを取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだ(である)。皆、これを受けて飲みなさい。これはわたしの血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血(である)。これをわたしの記念として行いなさい。」(ミサ典書) * 覚えよう …………… 「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ13：34b) 			
中学生の活動		カテキスタの指導内容	
留意点		<ul style="list-style-type: none"> * この単元は、できるだけ聖週間に合わせて行うようにし、3日間の典礼に参加するよう促す。 ★ 聖週間の典礼 ★ I コリ 15：3 - 5「キリスト教伝承の最初の文言」 I コリ 15：12 - 19 ★ ヨハネ 13：1 - 20、31 - 35、 マタイ 26：20 - 30、マルコ 14：17 - 26、 ルカ 22：14 - 23、I コリ 11：23 - 25 ★ 『カテキズム』610、611、1322 - 1419 ★ 『YOUCAT』208 - 223 ★ 『YOUCAT 堅信』10章 ★ ヨハネ 18：1 - 19：42「受難物語」 ★ 『カテキズム』599 - 637 ★ 『YOUCAT』94 - 103 ★ 『YOUCAT 堅信』5章 ★ マタイ 28：1 - 10(A年)、マルコ 16：1 - 7(B年)、 ルカ 24：1 - 12(C年) ★ 『カテキズム』638 - 658 ★ 『YOUCAT』104 - 108 ★ 『YOUCAT 堅信』6章 * シンボル…光、水、聖体など。復活徹夜祭について、聖週間の典礼(会衆用)の説明参照。 	

単元D	キリストは 私たちに派遣する	単元の目標	復活したイエスは教会を通して働き続けており、信者はキリストに結ばれ、聖霊に生かされて、キリストとともに神の国の働き人となることを知る。
ステップ1	聖霊の降臨によって誕生した教会	ステップ1のポイント	わたしたちが所属している教会は、復活したイエスが救いの御業を続けるための道具であることを知り、教会には世の終わりまで、そして世界のすべての人に福音を告げ知らせる使命があることを理解する。
中学生の活動		カテキスタの指導内容	
<ul style="list-style-type: none"> * 五旬祭の日に降った聖霊によって、旧約の民から新約の民に変えられたことについて知る。 * 聖霊降臨によって、教会は設立され、全人類を救う使命が与えられたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> * 神が旧約の民をご自分のものとされたことを記念する五旬祭の日に聖霊が降り、旧約の神の民が新しくされて教会が生まれたことを説明する。 * イエスの使命は全人類を救うことであり、イエスの復活後は、神の民である教会を通してこの使命が果たされ続けることを理解させる。 	留意点 <ul style="list-style-type: none"> ★ 使徒言行録2章「聖霊が降る」 ★ 『教会憲章』1 「現代の教会の使命を理解する」 	
<ul style="list-style-type: none"> * イエスはペトロを礎とし、その上に教会をたて、神の民に奉仕する者たちを任命したことを知る。 * 教会の奉仕職と団体性について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> * イエスは、シモンにペトロの名を与え、その上に教会をたてるという聖書の箇所（マタイ16：17～19）を読み、神の民に奉仕する者たちを選んだことを理解させる。 今も教皇を中心とした奉仕する人たちが全世界の教会のために働いていることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ マタイ16：17－19「この岩の上に教会をたてる」 ★ 『カテキズム』830－896 ★ 『YOUCAT』121－125、137、138、140－144 ★ 『YOUCAT 堅信』9章 ★ 使徒言行録2章「聖霊が降る」 	
<ul style="list-style-type: none"> * 洗礼を受けたわたしたちは、キリストを頭とする体の一部である。キリストとつながり、王職、祭司職、預言職を通して、教会共同体の中で生きることを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> * わたしたちは、キリストとつながり、教会共同体の中で生きている。王職、祭司職、預言職を通して人々を救う使命を果たしていくことを知らせる。 * 教会共同体的な側面を知らせる。 自らの小教区を確認させ、帰属意識を持たせる。また、籍の移動や結婚の際の手続き、教会維持費などの仕組みも説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 使徒言行録2：43－47「信者の生活」 ★ ヨハネ15：1－17「ぶどうの枝」 ★ 1コリント12：12－31「キリストの肢体」 ★ 『教会憲章』34－36 ★ 『カテキズム』781－829、897－975 ★ 『YOUCAT』126－134 ★ 『YOUCAT 堅信』9章 * 教会共同体のつながり（子供会、中高生会、青年会、病者訪問、大分教区カリタス、種々祈りの活動、WYD） 	
備考 <ul style="list-style-type: none"> * 体験しよう 教皇のメッセージを読んで自分なりに考えてみよう。（インターネット、本、カトリック新聞などで読むことができる） * 体験しよう 教会共同体のつながりの中で生きるため、種々の活動に参加しよう。（例えば、中高生の集いや長崎平和学習など） 			

単元D	キリストは 私たちに派遣する	単元の目標	復活したイエスは教会を通して働き続けており、信者はキリストに結ばれ、聖霊に生かされて、キリストとともに神の国の働き人となることを知る。
ステップ2	堅信の秘跡	ステップ2の ポイント	堅信の秘跡によって受ける聖霊について学び、堅信の秘跡を受ける意味を深く理解する。
中学生の活動		カテキスタの指導内容	
<p>* ステップ1の学びを想起し、教会を生かしている聖霊は、教会の秘跡を通して、生涯に亘ってわたしたちにキリストの恵みを与え続けることを学ぶ。(七つの秘跡)</p>		<p>* ステップ1の学びを想起させ、教会のうちにおられ、これを生かしておられる聖霊は、キリスト者を恵みで満たされることを教え、人生の節目と七つの秘跡の関係を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 誕生：洗礼、成人：堅信、結婚：結婚、身体の危機：病者の塗油、霊的危機：ゆるし、いのちの糧：聖体、秘跡の奉仕：叙階 	
<p>* 堅信の秘跡によってわたしたちの心に来てくださる聖霊について理解を深める。イエスの説明、聖人たちの例から聖霊がイエスの愛の霊であること、さらにパウロの説明から聖霊の実りについて学ぶ。</p> <p>* 心のうちに来られた聖霊と出会う方法は祈りであることを理解する。</p> <p>* ステップ1で学んだイエスの使命、そして教会の使命を思い起し、キリストは、堅信の秘跡によって聖霊を受け、教会により固く結ばれたわたしたちを通して救いの業を続けておられることを理解する。</p>		<p>* これから受ける堅信の秘跡で聖霊がさらに注入されることを知らせ、イエスの説明、パウロの説明などから、私たちの心に注がれるイエスの愛の霊である聖霊について理解を深めさせ、積極的に堅信の秘跡を受けたいとの強い望み(自由な決断)を起こさせる。</p> <p>* 心のうちに与えられる聖霊と出会う方法が祈りであることを理解させ、あらゆる機会に、聖霊の呼びかけを聴くような祈りの方法を身に付けさせる。</p> <p>* キリストは、堅信の秘跡によって教会と固く結ばれるわたしたち(教会)を通して、世の救いのために働き続けられることを理解させる。</p>	
<p>* 一人ひとりには神から愛に生きるよう、呼びかけられていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての人への呼びかけ(召命)は、今いる場所で兄弟愛を生きることによって、地の塩、世の光となることであることを学ぶ。 教会のメンバーには特別な使命があることを理解し、自分の召命について祈りのうちに考える。 		<p>* 神の霊に生かされた者として、自分の人生について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> イエスと同じように神への愛と、隣人愛に生きるとき、「神の似姿」である人間は、人生の喜びと意義をみいだすよう導く。 イエスと同じ使命に生きるために、将来について考えること、祈りのうちに神に聴くことの大切さを理解させる。 	
<p>備考 * 覚えよう …… 7つの秘跡(洗礼、堅信、聖体、ゆるしの秘跡、叙階、結婚、病者の塗油)と聖霊の賜物(上智、聡明、賢慮、勇気、知識、考愛、畏敬)。</p>			

単元D	ステップ3	「堅信式 直前の準備」
-----	-------	--------------------

堅信式直前の準備にあたっては、以下の点について留意して行う。なお、(主任)司祭とカテキスタはもちろんのこと、受堅者の保護者や代父母などを含む協力体制が絶対に重要かつ必要になる。

準備内容	配慮すべきこと	参考文献
* 堅信の秘跡を受ける意味や意義についての最終確認(例えば、講話などの形で)	<ul style="list-style-type: none"> * 「洗礼の恵みの完成としての堅信の秘跡」：洗礼を受けた時、聖霊とその恵みは私たちに降っているが、堅信は洗礼の恵みを完成させ、聖霊の特別な力で強め、その人をキリストの真の証人とする(『カテキズム』1285)。 • 堅信を受ける人は、自らの自由意志とその決断をもってこの秘跡の恵みに与り、信仰の恵みを生きる者となることを認識させる。 • 自身の将来についてもしっかりと考える機会とするよう配慮する。自由意志をもって神の望みに応えていく重要性を確認する。 • これから歩んでいく人生において、神の恵みと聖霊の働きは常にあること、それに依り頼んで生きていく必要性が心に刻まれるようにする。 	★『堅信への旅』(横浜教区典礼委員会)P.79～86
* ゆるしの秘跡(内的準備)	<ul style="list-style-type: none"> * 受堅者はもちろん、カテキスタも、また、保護者や代父母もゆるしの秘跡に与ることができるよう、司祭とカテキスタが日程、場所などについて具体的に調整する。 * 特に、受堅者には以下のような点に関して認識させる。 <ul style="list-style-type: none"> • 堅信の秘跡は信者としての人生の大切な時、節目であること。 • これから大人の信者として生きていく上での決意、決心。 • 堅信準備の期間の振り返り。 • カテキスタや司祭、また、親や信徒など、堅信準備に協力してくれた方々への感謝。 	
* リハーサル(具体的な受け答えの練習を含む)	<ul style="list-style-type: none"> * 一つひとつの動作や典礼的な意味についてしっかりと説明する。 * 受け答えは大きな声でするように伝える。 * 代父母と親も参加する。特に代父母には自分の役割(動作)について、しっかりと教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ★『堅信への旅【リーダーの手引き】』(横浜教区典礼委員会)P.41～49「堅信の式の準備」 ★儀式書『堅信式』緒言19
* 堅信式の具体的準備	* 司祭だけに任せるのではなく、カテキスタも必要な典礼用具についてよく学ぶ。	

堅信を準備する者の祈り

すべてのものづくり主である神よ、
堅信の秘跡を受ける準備しているわたしたちの上に
聖霊を遣わしてください。
あなたの恵みによって自分を知る知恵を、
あなたの働きを理解する聡明さを、
毎日の生活におけるより良い判断を、
いつも正しいことを実行する力を、
すべてを御摂理のうちに理解する知識を、
あなたにすべてを委ねる信仰を、
そして、あなたを畏れ敬う心を与えてください。

この準備の期間を通して出会う仲間と素晴らしい友情を
結ぶことができるように助けてください。

この準備のために協力してくれる家族や教会の信徒の
方々に、あなたの豊かなお恵みをお与えください。

そして、わたしたち一人ひとりが、あなたの望まれる道
を見出すことができますように。

これからの人生の道をあなたの召し出しに応えながら、
大人のキリスト者として、イエス・キリストと共に生き、
救いの福音をすべての人に伝えていくことができるよう
に、守り導いてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン